

日本製のテレビドラマに描かれる中国人の女性若者像

陳 啓^{*1}・和田 正 人^{*2}

教育実践研究支援センター

(2015年9月19日受理)

1. はじめに

古くから日本人の生活の一部にテレビ、雑誌、新聞、ラジオの4つの媒体が浸透してきている。中でも、特に大きな影響力があると言われているのがテレビである。テレビは電源をつけてチャンネルを選ぶだけで、情報が流れる利便性があり、視聴者は受動的に情報を受けることが一般的である。

日本のテレビドラマは1953年にテレビ番組が生まれて以来、絶えずテレビ番組の中では人気を集め、今はほかの種類のテレビ番組と比べ、常に番組平均世代視聴率の一番高いテレビ番組となり、あらゆる番組の中で一番日本中の注目を集める存在と言っても過言ではない。絶大な人気を誇るテレビドラマも一つのマスメディアとして、当然その受容者の日本人に大きな影響を及ぼし続けている。

近年、中国と日本の間では「戦略的互惠関係」を築くために両国とも努力をしている中、日本製テレビドラマにも中国人役が続々と登場する傾向がみられる。特に2008年から2011年の間、日中友好の発展に伴い、日本製ドラマに登場する中国人役の登場人物が頻繁に姿を現し、多くの日本人に「今の中国人の様子」を伝えてきている。

本稿では、日本のテレビドラマに登場する人物の中から、中国人若者に注目して、2008年から2011年までの日本人気ドラマの「月の恋人～Moon Lovers～」、「OL日本」、「上海タイフーン」に登場する中国人の若い女性の役を取り上げ、今の日本のテレビに描かれる中国人若者のステレオタイプを分析し、日本のテレビ

が視聴者にどんな中国人若者のイメージを築いているのかを明らかにする。

1. 1 研究背景

本研究の背景として、2008年から2011年の間に、日中両国の経済や政治関係が進む中、日本国民へ最大の影響力を持つと言われるテレビドラマの現状を示す。

まずは近年の日中関係について説明する。2007年の安倍晋三訪中・温家宝訪日でそれぞれ共同プレスを発表して日中両国は「氷を砕いて溶かして」きた。そして、日中条約30周年の2008年には胡錦濤国家主席が来日し、暖かい春を迎えて当時の日中関係を表現した「戦略的互惠関係」の包括的推進に関する日中共同声明が発表され、2008年に日中関係がピークに達した。当時日本外務省が発表した「最近の日中関係と中国情勢」のレポート⁸⁾にも日中友好の傾向がみられる。2007年から2009年に日中間の首脳会談がピークを迎えたと考えられる。

1975年の日中国交正常化から2012年までの日中両国の民間交流では、2010年に訪日中国人数と訪日日本人数の合計が過去最大となった⁸⁾。日中国交正常化から30年以上経つ2007年から2011の間に、日中両国の政府と民間の交流が盛んに行われた。そこで、日本のテレビドラマも「中国ブーム」を迎えた。よって、本研究では2007年から2011年の間の日本製テレビドラマを研究対象として取り上げることにした。

一方、近年のインターネットは若い年齢層において影響力が増しているが、若い世代からお年寄りの全年

*1 東京学芸大学大学院 教育学研究科 平成26年度修了生

*2 東京学芸大学 教育実践研究支援センター (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)

年齢層の日本国民に一番の影響を持つのはやはりテレビであろう。平成24年末のインターネット利用者数は、平成23年末より42万人増加して9,652万人（前年比0.4%増）、人口普及率は79.5%（前年差0.4ポイント増）¹⁾と比べ、社団法人デジタル放送推進協会の調査による平成22年12月の時点での地上デジタルテレビ放送対応受信機の世帯普及率は約95%となり、明らかにインターネットより大きな影響を持っている¹⁾。

日本全体にも大きな影響力を持つテレビでは毎日さまざまな番組が放送される中、テレビドラマは娯楽番組と並び一番の視聴率を誇る。テレビドラマには、ほかのメディアと比べて比較にならないほど巨大な視聴者が存在している²⁾。テレビドラマは日本人の人々の生活のあらゆるところまで影響を及ぼしていると言っても過言ではない。これまでもドラマが描く登場人物の言動や価値観、性役割、ライフスタイル、家族の在り方など多様なものが分析され、視聴者への影響が論じられてきた。受け手はそれぞれ、その社会的文化的背景から能動的に番組のメッセージを解釈し、時には送り手が予想しなかった形で大きな影響を受けることがある。そうした影響は、番組が制作された国のみにとどまるものではない、国境を越えて視聴者に様々なメッセージを届けるテレビ番組を理解し、その限界を考えたい。

多くの日本人にとって、日常生活で中国の若者と身近に接触する機会は必ずしも多くはない。多様なメディアを媒介として各国の実像が伝達されている現在、人々の中国の若者に対するイメージ形成にマスメディア、とりわけテレビの果たす役割は非常に大きいと考えられる。そこで中国ブームが盛んである中、2007年から2011年までのテレビドラマに登場する中国人役の人物は、日本人の中国若者に対するイメージの形成に大きな影響を及ぼしている。では、果たしてテレビで中国若者はどのように描かれているのであろうか。テレビにおける中国の若者の描写は、このメディアの特質上、ステレオタイプ的になりがちである。

1. 2 ステレオタイプ

ステレオタイプの語源はギリシャ語で「固定した、固い、安全な」を意味する *stereo* と「印象や特徴を伝える動作」である *type* とが組み合わされた言葉で、本来は18世紀末にフランスで発明された印刷方法、または鉛版を意味していたが、Lippmanより、社会心理学・社会学的概念として用いられるようになった。ステレオタイプは、その単純化・画一化ゆえに、実際とは異なっていたり歪んでいたりと、実物を正確に反

映したものではなく、強い感情的要素と結びつく事が多いのである。

私たちはこの複雑な世界をグループ化し、カテゴリー化することで理解している。したがって、カテゴリー化は自然な認知過程の一部であり、人間にとって必要なことである。しかし、カテゴリー化の後に、あるグループに属する全ての物や人に同じ特性をあてはめてしまうことがある。これはステレオタイプ化と呼ばれ、ジャーナリストのLippmanが1922年に初めて使用したとされる。Lippman (2007) は、「私たちはたいていの場合、見てから定義しないで定義してから見る」と述べ、私たちの頭の中にある「絵」が、外界を処理する際によく人を誤って導くとしている。この「絵」がまさにステレオタイプである。

ステレオタイプ研究の流れについて紹介する。社会心理学におけるステレオタイプ研究の潮流は、大別して2つ挙げることができる(唐沢, 2001)¹³⁾。その第一は「古典的なアプローチ」で、多くの人によって思い描かれた「画像」の内容を記述することが主な目的であった。その代表例としては、回答者集団のうち何%の人がある特性が対象集団に当てはまると答えるかを数える方法で、集団レベルで共有された信念であるという特徴をよくとらえている。なぜこのような心理的プロセスを経てステレオタイプが形成されるのかという問題の解決策として、ステレオタイプの第二の潮流「認知的アプローチ」が生まれた。人間が情報処理を行う限り当然のように生まれる一般的な傾向の産物として、ステレオタイプの形成過程が理解されるようになった。認知的アプローチの研究はステレオタイプの形成や変容、維持にかかる認知的な過程とその性質と、その結果産出される表象の実態を明らかにするうちに、「カテゴリー化」の効果に関する研究は多くの成果を上げた。つまり物事をカテゴリーに分類すると、同一カテゴリー内の成員については互いの類似性を、また異なるカテゴリー成員間には相異性を、それぞれ拡大する傾向があることが知られた。冒頭に挙げたステレオタイプの性質とする「単純化・画一化」もこのようにカテゴリー化過程の結果として説明することができる。一方、「古典的なアプローチ」の「内容」について、新しく検討が行われた領域の一つは「カテゴリー表象」である。この考え方を援用すると、社会的カテゴリーの表象にも、成員間に分布する「典型的」あるいは「体表的」特徴というパラメーターだけではなく、「変動性」の認知に関する情報も含まれていると考えることができる。このような「集団変動性」の研究がきっかけとなって、社会的カテゴリーに

関する表象の形成に関する議論は格段に進歩してきた。我々は社会的なカテゴリーや集団、特定の役割を持ち、人々に対しても既有知識を当てはめて情報処理をしていることを示した。そしてステレオタイプの活性化の適用過程は多くの認知的資源が動員されている可能性を示唆する研究結果もある。将来の研究においては、ステレオタイプの対象となる集団の成員が、他者からステレオタイプの的に扱われることに対してどのような心理的な反応を示すかについて吟味する必要があると思われる。

Lippman (2007) も当時指摘したように、私たちは「文化が既に定義したものを選び、それを私たちの文化によってステレオタイプ化された形で知覚しがちである」。つまりステレオタイプの問題は、一度形成されるとそれに合った情報のみを選んで認知し、情報を歪めて取り入れてしまうため、事実の正確な把握を難しくすることにある。また、そのことが偏見につながり差別を生むことが、異文化コミュニケーションの大きな障害となっている。

メディアのステレオタイプに関して、テレビコマーシャルやアメリカのテレビドラマによる人種差別と偏見の問題や欧米メディアに見る日本報道や在日フィリピン人女性表象などが多く研究された。近藤の「歪んだ鏡に写った日本」はイギリスで日本伝統文化を宣伝する大きなイベント (Japan 2001) を控えているときに、イギリスのテレビで Japan Week と銘打って日本関連の番組を流すことをきっかけに、イギリスから西欧のメディアが映した日本についてリサーチし、「日本蔑視記事」を結果として挙げ、その背景や原因についての研究である⁹⁾。侯野の「1990年代の米国製テレビドラマにおける中国系女性像」⁵⁾と「中国系アメリカ人女性の表象 — テレビドラマ, Ally McBealを例に—」⁴⁾の二つの論文は米国の映画やテレビドラマなどのエンターテインメント作品はその絶大な人気とは裏腹に、人種的マイノリティの描き方に対して様々な問題点を指摘し、アメリカのメディア業界では一般的に、白人が優位な立場に立ち、白人以外のマイノリティ達は不利な状況におかれる傾向にあると述べた。特にアジア系の人々が映画やテレビドラマに登場することは非常に稀であり、その表象のされ方は、常にネガティブ、またはステレオタイプ的である。この研究においては、研究対象は常に「米国」に救済されるアジア系女性として表象され、白人支配の正当化に手助けをしていると述べている。メディアに関しても、特にテレビコマーシャルに登場する外国人 (欧米人) のステレオタイプが多く研究された。日吉の「テレビ広告にお

ける外国人登場人物像に関する実証的研究」は自由民権運動を背景に民族的「少数派」が表現される機会は増したが、それをキャンペーンとしてとらえるメディアの姿勢のなかで固定したイメージが生まれるとともに、次第に減少していったということを述べている¹⁰⁾。唐牛と楠見の「潜在的ジェンダーステレオタイプ知識と対人印象判断の関係」の研究では、ステレオタイプの知識連合において、プライムへの事前接触が対人判断に与える効果に強く関連することを示した¹¹⁾。しかし日本のメディアに登場する中国人についてはまだまだ空白の現状である。

このような状況を踏まえて、本研究では複数の日本テレビドラマ作品を取り上げ、ストーリー全体の中で登場する中国若者に焦点を当てる。テレビドラマのストーリーが発展していく中、共有する特徴とほかの登場人物との関係の築き方を分析し、日本製テレビドラマの中国の女性若者のステレオタイプを明らかにする。

1. 3 研究目的

日中両国は、長い歴史のある「一衣帯水」で切っても切れないお隣同士の関係にある。しかし、さまざまな複雑な原因で両国関係は本来あるべき親しさではない。それを改善すべく、これからの交流が一層多くなると見込まれる日本と中国人の若者のお互いの理解を深めようと思う。日本人は誰でも身近に中国の若者がいるとは限らないので、多くの人々が持つ中国人のイメージは、日本のテレビからではないだろうか。

本研究では、人々の中国人の若者のイメージ形成に影響をあたえる重要な要因の一つとして、テレビの連続ドラマを取上げ、テレビドラマで中国人の若者女性はどうのように描かれているのかを分析する。果たして、テレビドラマが伝える中国人の若者女性像は、ステレオタイプになっているのであろうか。

侯野の二つの論文^{4) 5)}においては、アメリカのメディア業界では一般的に、白人が優位な立場に立ち、白人以外のマイノリティ達は不利な状況におかれる傾向にあると述べ、常に「米国」に救済されるアジア系女性として表象され、白人支配の正当化に手助けをしていることを示している。そこで本研究では日本のテレビドラマにも似たようなこと、つまり登場人物の中国人若者女性を不利な状況として、日本人に助けられる状況に置かれる傾向があるのではないかと想定し、これを検証していきたい。

1. 4 仮説の設定

本研究では日本製テレビドラマに登場する中国人の若い女性がどのように描かれているのを明らかにすることを研究目的とした。そのために「中国人の若い女性は日本人に助けられる」という仮説を設定した。

仮説を検証する際に、ある人物の容姿・外見と生活環境・社会的位置づけの二つの点の成長を促進できるような助けを「助ける」と定義する。つまり、他人に自分の容姿・外見と生活環境・社会的位置づけが上向きに変化するように助けられることを「助けられる」とする。具体的に言うと、外見・容姿については「キレイになる」、「おしゃれになる」などで、生活環境・社会的位置づけについては「家族が団欒する」「(仕事や勉強など)能力の向上」、「知識の増加」、「より良い仕事に就く」などである。こうした結果を得ることができれば、仮説が検証されたと考えられる。

1. 5 研究方法：内容分析

新聞、雑誌、テレビなどのいわゆるマスメディアから受け手にもたらされるされる情報を研究対象とした研究の多くが用いた研究方法は内容分析である。内容分析とはマスメディア研究やコミュニケーション研究などの社会科学において、雑誌や新聞記事等の文章の内容や、テレビ番組の内容、コミュニケーション内容(メッセージ)を、客観的かつ数量的に分析するための研究方法である。

たとえば西別府と岩男の「テレビドラマの社会心理学的研究：内容分析を中心として」の研究論文の中で登場人物(人間でなくても登場人物と表記)に焦点を当てた分析では、各登場人物ごとにコーディングする研究方法をとった⁶⁾。つまり登場人物が5人いれば5人分のコーディングとなる。全部で53ある分析項目には、主役か脇役か、性別や年齢などといった個人の特性、家事・育児への参加、悪玉か善玉かといったタイプ、人生観(社会活動志向の仕事・勉強型か、個人志向の趣味型か、家族志向のマイホーム型か)、暴力や性的行為に関係があるかどうか、違法行為があるか、などが含まれる。先行研究では、魅力的-魅力的でない、親しみやすい-親みにくい、など21対のSD項目が用いられた。しかし内容分析は膨大な情報を扱うため、信頼性を高めるため事前に訓練を受けた複数のコーダーが必要となり、見落としのないように番組を繰り返し視聴しながらコーディングを行うことになる。このような内容分析の方法は多様な分析項目を設定し、多角的な分析を可能とした。西別府と岩男は、番組分析について番組の形式・種類・トーン・結

末・ストーリーの現実性・テーマ・主なる情景設定を分析し、登場人物分析については名前・主役や脇役・性別・年齢・国籍・階層・職業・家事(育児)への参加・タイプ(善玉か悪玉)・深刻さ・人生観・登場人物の違法行為の有無・性的行為など様々な角度から分析することのほかにも暴力描写の分析や性描写の分析について53項目で分析することを行った。しかし本研究ではなるべく一人で研究することを念頭に置き、しかも具体的な研究対象(3つのテレビドラマに登場する4人の中国人の若者女性)の登場人物の分析のため、膨大な情報を扱う割には、カテゴリーや変数は少ないため、内容分析を完全に用いることは行わない。

しかし研究の客観性を保証するため、実証研究の内容分析のテクニックを使うことは避けられない。内容分析における分析技法は「頻度」、「関連性・相関・クロス表」、「イメージ・描写・判別分析」、「コンテイングエンジャー(随伴)分析」、「クラスター分析」、「文脈的分類法」の6つである。分析結果を要約するためにもっとも多く用いられるデータ表示形態は頻度分析である。その次によく用いられるデータの表示形態は変数間の関係である。そのような関係は、ある変数の値とほかの変数の値の共起の頻度のクロス表に見られる。データ内部の複雑な多次元的構造を検証するには多変量解析の手法が利用できる。特定な事物や、個人や、思想や、出来事に焦点を当てて、それらがどのように描写されたり、概念化されているか、そのシンボリックなイメージはどのようなものかを見つけ出そうとする内容分析の研究はイメージ・描写・判別分析の技法を使うことが多い。コンテイングエンジャー(随伴)分析は、メッセージにおけるシンボルの共起のパターンから、ある情報源における関連性のネットワークを推測することを目的としている。クラスター分析とはデータを概念化する作業を容易にすることを目的に、大きな共起表が示す膨大な情報の中でいくつかの概念が非常に似ており、相互関連しているため、それらを見つけ出し、同一のものとして扱う技法である。文脈的分類法は、データに含まれるある種の冗長性を取り除き、それによって根底にある概念を抽出するための多変量解析の手法である。一つの例を挙げると、リーダーシップの知覚に関する研究の中では、毛沢東夫人の演説に文脈的分類法をかけると、この演説の一部が固定的フォーマットで標準化されたと示された。「イメージ・描写・判別分析」では「属性、頻度のプロフィール、分布上の特徴」及び「関連性」の二つのアプローチがある。「属性、頻度のプロフィール、分布上の特徴」というアプローチを用いて対象人物のイ

イメージを研究する場合、その対象に関連のあるすべての事項を記録して集計し、それらをカテゴライズして各カテゴリーにおける出現頻度を図にまとめる。そうすることによって研究対象のプロフィールが明らかになる。尚、関連性/非関連性は、選択された概念の生起する度合を評価するための統計的概念である。

そこで本研究の研究目的としては、3つの日本製テレビドラマに登場する4人の登場人物はどのように描写され、「助けられる存在」に概念化されているかについて研究したいと考えた。そのためには、彼女たちの容姿・外見、生活環境・社会的位置づけと性格・行動に関する分析をすることが必要となる。そこで4人の登場人物に焦点を当て、4人に関連のあるすべての事項をデータに整理し、「イメージ・描写・判別分析」の技法の「属性、頻度のプロフィール、分布上の特徴」というアプローチを使い、4人のイメージを明らかにする。そして「助けられる存在」として描かれているかどうかを判明するには「関連性」のアプローチを使い、4人は「助けられる存在」という特定のイメージとの関連性をどれくらい持っているかを示す必要がある。したがって、本研究では「イメージ・描写・判別分析」という内容分析の技法を使うことにした。

本研究と同じくテレビドラマの登場人物に関する研究を行った俣野⁵⁾は、メディア作品の分析は時に主観性が指摘されることがあり³⁾、客観性をいかに担保するかが問題になると述べている。本研究は体系的に中国の若者像を他の登場人物との関係性の中で捉えることを目的としているため、これらを重視して分析方法を設定した。まず、作品中で中国系女性が登場する場面の台詞を全て文字に書き起こした。その資料を元に、中国系女性と他の登場人物との間で繰り返されるパターンを抽出し、一覧表を作成するという方法をとった。

本研究も俣野の研究⁵⁾からヒントを得た。アメリカ製のドラマのなかで中国系女性は「助けられる人物」として描かれているのであれば、日本製のテレビドラマも中国人の若者女性を「助けられる人物」として描いているのであろう。そこで本論文では俣野のこの論文の研究結果を念頭に置いて、研究方法についても参考にした。

本研究では内容分析と俣野の研究論文⁵⁾の方法をもとに、本研究の目的と焦点に合わせて新たな研究方法をとった。

2. 分析方法

2. 1 分析対象の選定

テレビドラマ番組には、できるだけ視聴率を上げるために送り手が認知した受け手の好みやニーズ以外にスポンサーの意向、制作費など様々な要因がそれぞれ関わっている。そこで、その影響をできるだけ抑えるため、異なる条件で制作されたテレビドラマを選択し、複数のドラマを研究対象として取り上げるようにした。

研究対象とする作品を選定する際、古くから数ある日本製のドラマの中から中国人の役者が登場した全てのドラマ作品を把握、分析することには困難が伴うことが判明した。中国人若者の登場人物でも、名前も挙がらない端役の場合には、作品を見つけることが難しい。これらのことを克服するため、本研究では日中交流が盛んであった2008年から2011年までの日本製テレビドラマから研究対象を選定することにした。2008年から2011年の日本製テレビドラマの中で、中国人の若い女性役が主要登場人物かゲストとして登場するテレビドラマを探したところ、10番組が該当した。

そして作品の選定においては次の西別府・岩男の基準⁶⁾を用いた。西別府・岩男は、番組制作者は視聴者の好みを推定し、高視聴率をあげることを意図して番組を制作しているために、高視聴率の「ドラマ」番組は視聴者の好みをよりの確に反映している⁶⁾と述べている。したがって、本研究でも低視聴率の2番組を研究対象から外した。

高視聴率の番組に作り上げるため、テレビ局の制作側は視聴者のニーズを推定し、できるだけ夜のプライムタイム(21～23時)でドラマを放送すると思われるため、プライムタイムで放送されるドラマはよりの確に視聴者の好みを反映すると考えられる。したがって、本研究では社会への影響力が大きい、公共放送と民間放送(地上波テレビ)の連続ドラマでプライムタイム(21～23時)で放送された6作品が該当した。

そして、中国人若者女性の役者が準主役以上で出演していて、登場人物の背景、性格、およびストーリーの発展に伴う変化は、登場人物の研究に必要な不可欠である。そのために、1話だけにゲストとして名前も挙がらない端役の若い中国人女性役だけが登場する2番組を研究対象から外すことにした。

最後に、正確に作品を把握できて、視聴、分析を可能にするため、DVDもしくはビデオ化作品であること、という基準を設けた。そこで「遙かなる絆」という作品を探したところ、視聴できるような作品を見つ

け出すことができなかつたため、残されたNHK総合の「上海タイフーン」、日本テレビの「OL日本」とフジテレビの「月の恋人～Moon Lovers～」の3つの作品を取上げることにした。

2. 2 分析対象

今回の研究では、日中交流の盛んである時期の2008年から2011年までの4年間に地上波テレビのテレビ局で放映された連続ドラマの中から、2008年に放送されたNHK総合の「上海タイフーン」、日本テレビの「OL日本」と2010年に放送されたフジテレビの「月の恋人～Moon Lovers～」を取上げた。

選択された3つの日本製テレビドラマの基本データは表1である。

これらの3つのドラマのあらすじについて紹介する。

「上海タイフーン」は日本で行き場を失った一人の30代の女性の主人公が、文化、習慣の違いにもまれ、複雑な競争社会に立ち向かい、切実に生き抜き、やがては国籍を超えた人間関係を得て、自分の「幸せのかたち」を見つける物語である。主人公の野村美鈴はもともと日本のアパレル会社で働いて、中国上海での出張をきっかけに仕事も婚約者も失った。復讐を決意した野村は再び上海へ行き、新たなスタートを切りたいと考え、いろいろな困難と向き合い、最後は中国で十年ぶりに父親と会うことができ、国境を越えた仲間やソウルメイトを手に入れ、夢を実現するストーリーである。

「OL日本」は、中国でのアウトソーシングの成果を視察して帰国した会社員の神崎島子が所属する総務課の仕事は中国に移され、人事部と経理部の業務の50%以上は中国に移管されることから始まる。それと同時に、中国の人材派遣会社・杭州人材有限公司からやって来た中国人研修生も日本の総務課で研修を始める。日本人と中国人が混ざって仕事をし始める時に、異文化が衝突して、うまく行かなかったが、だんだんお互いに理解しあい、仲良くなっていくと同時に、自分たちの生きる道を探す物語である。

「月の恋人～Moon Lovers～」の主人公の葉月蓮介

は家具店の社長として、中国上海へ出店した。しかし、1号店開店により閉鎖を迫られる工場で働く中国人たちが建設反対を訴え、座り込みを断行していた。その頃に、葉月は工場で働いていた劉秀美と出会った。デザイナーとして葉月の会社で働く二宮真絵美は葉月と学生時代からの知り合いで葉月に信頼されて、唯一葉月に意見できる存在である。蔡風見は葉月の有能な部下で、日本から葉月を追いかけ、モデルの大貫袖月も上海まで乗り込んだ。「月の恋人～Moon Lovers～」はこの五人のラブストーリーが展開していく物語である。

この3つの作品に登場する4人の中国人女性の登場人物はすべて中国（台湾）人役者が出演しており、実際に中国でとったシーンもたくさんある。この3つの作品に登場する中国人の若者女性役の黄琳（ファン・リン）、張琳（チャン・リン）、楊洋（ヤン・ヤン）、劉秀美（リュウ・シューメイ）の4人を対象にして、詳しく分析する。

2. 3 分析の枠組み

分析方法として、3つの日本製テレビドラマにおける4人の登場人物がどのように描写され、「助けられる存在」として概念化されているかを明らかにすることが目的である。そのために、彼女たちの容姿・外見、生活環境・社会的位置づけ及び性格・行動に関する分析を行う必要がある。故に4人の登場人物に焦点を当て、4人に関連するすべての事項をデータ化して整理し、「イメージ・描写・判別分析」の技法の「属性、頻度のプロフィール、分布上の特徴」というアプローチを用い、4人のイメージを明らかにする。そして「助けられる存在」として描かれているかどうかを明らかにするために「関連性」のアプローチを用い、4人が「助けられる存在」という特定のイメージとの関連性をどの程度持っているかを示す必要がある。したがって、本研究では「イメージ・描写・判別分析」という内容分析の技法を用いることにした。本研究の分析方法について紹介する。3つのテレビドラマに登場する中国人の若者女性4人を研究対象に、4人が登場する場面のすべての台詞を書き起こし、その資料を

表1 分析したドラマの基本データ

ドラマ名	制作会社	制作年度	脚本家
上海タイフーン	NHKエンタープライズ	2008	福田靖
OL日本	AXON, 日本テレビ	2008	中園ミホ
月の恋人～Moon Lovers～	フジテレビドラマ制作センター	2010	浅野妙子, 池上純哉, 高橋幹子, 山上ちはる

元に彼女たちの容姿・外見、生活環境・社会的立場、性格・行動の3つの角度と容姿・外見、生活環境・社会的立場の前後対比について分析し、4人が最初に登場する時にはステレオタイプとなっているかどうか、最後には「日本人に助けられる存在」となっているかどうかを判断する。具体的な分析方法は内容分析で、俣野の分析方法⁵⁾に基づいて、ドラマの中の具体的な人物の設定や台詞をすべて書き起こした資料を分析するという方法を取った。

分析を容易にするために、操作的定義をいくつか行う。容姿・外見に関しては、「すっぴん、あるいは薄い化粧である」、「髪の毛は地色で染めたりしてスタイリングしていない」、「服装は時代遅れである、あるいは5着以下しかない」の3つの条件のうち2つを満たせば「素朴」であると判定する。生活環境・社会的立場に関しては、「農村出身」、「家庭の家計が1人の稼ぎに頼っている」、「お金に困っている」という3つの条件のうち2つの条件を満たせば「貧困」とであると判定する。

客観性を担保するため、性格については複数人で分析を行った。さらに性格の分類の枠組みと基準については、登場する場面から現れるすべての性格要素をまとめた。たとえば「他人に助けられる」、「他人に決められる」場面の回数が5回あるならば無力だと判断し、「他人を助ける」、「自分より先に他人を考える」場面が5回あるならやさしいと判定した。つまりそれぞれの性格が表す場面が5回以上あれば、その性格を持つと判断した。

具体的な分析に入る前に、まず4人の基本的背景について紹介する。

「上海」の黄琳は上海で暮らしている高校生である。母親と二人暮らしをしているため、母親の稼ぎで家計を立てている。日本に出稼ぎに行ったきりの父親に会いに行くために、黄は日本語を勉強している。しかし母親からの理解が得られず、いつも父親のことで母親と喧嘩している。そこで「上海」の女主人公の野村と出会い、お互いに励まし、最後は野村が作ったアパレルのブランドのモデルになり、上海コレクションのステージに立ち、父親と会うこともでき、日本に留学する夢にも成功した。

「OL」の張琳は貧困な中国湖南省の山奥の農村の出身で、両親が身を粉にして働き、大学へ行かせた。卒業してから中国の杭州人材有限公司（アウトソーシング会社）に就職し、主人公の神崎の働いている日本の会社で研修生として働くことをきっかけに、初めて国から出て、日本人の同僚と毎日過ごすことになった。

「OL」に登場するもう一人の若者女性の楊洋は上海市出身の女性で、張と同じく研修生として日本に来た。この二人は日本で働き、日本人と衝突することもあるものの、だんだんお互いに理解することができ、日本人の友達もできた。

「月」の劉秀美は江西省の出身で、もともとは上海で出稼ぎ労働者として主人公が買収した家具工場に働いていた。病気で寝たきりな母親と二人暮らしであり、葉代から生活費までやりくりしている。そこで工場が買収され、家計がかなり苦しい状態で、立ち退きも通告された状況の中、やむを得ず主人公葉月の新しい会社でモデルとして働き始める。連絡の取れない父親がいて、現在は日本で暮らしている。本人はいつか父親に会いに日本へ行きたいと思っているため、近所の人から日本語を少し学んでいる。モデルの仕事で日本へ行き、有名になり、父親と会うこともできたと同時に葉月との間にも恋が芽生える。しかしうまくいかず、最後は中国に帰り、女優になった。

3. 分析結果

3. 1 外見・容姿

テレビドラマは何話もストーリーが続くことによって、俳優は何回も登場し、その髪形や服装もストーリーの進展に合わせて変わっていく。本研究で外見を研究する際には、中国人若者が最初に登場するシーンに力を入れ、ストーリー全般に合わせ、一人一人の容姿を分析する。

3つのドラマの中で、最初に登場する時の髪形や服装を一番の基準とした理由は、視聴者が最初に受けた視覚の刺激が一番強く、短い時間で第一印象が形成され、視聴者の記憶に残る時間がより長い⁷⁾とされていることによるのである。そして4人それぞれの最初に登場する時と最後に登場する時の容姿・外見にも大きな変化が見られる。

3. 1. 1 髪形

研究対象の4人がそれぞれのテレビドラマの第一話に登場する時の髪形については表2の通りである。

表2 登場人物の髪型

人物	色	形
黄琳	黒	ストレートの2つ結び
張琳	黒	ストレートの1つ結び
楊洋	黒	3つ編みの1つ結び
劉秀美	黒	3つ編み

4人の髪形をまとめてみると、ほぼ黒の髪色で、単純な髪形をしている。共通点は全員長い髪で、ほぼすべてが一番簡単な黒の一本結びか3つ編みということである。

しかしストーリーの流れに合わせて、変化を遂げる。最後に登場する時には4人とも最初の登場と一変して、セットされた散らし髪となっている。その中でも一番の変化を見せたのは劉秀美である。劉が最初に登場する時には乱れた3つ編みで、髪色も黒であったが、だんだん茶色くなり、おしゃれな髪形になっていく。

3. 1. 2 化粧状態

「上海タイフーン」(以下は「上海」と略す)の主要人物として登場する黄琳を演じる女優は可愛らしい顔を持ち、主に薄い化粧で登場する人物である。

「OL日本」(以下は「OL」と略す)に登場する2人の女性の張琳と楊洋の容貌については、すっぴんを特徴としている。2人の化粧状態を説明するために、日本に研修生として働きはじめたとき、同じ女性の日本人先輩の神崎と矢部を家に招いた場面为例として挙げる。

例：「OL日本」第一話 46分50秒

楊：「神崎さん、質問があるよ。神崎さんも矢部ちゃんも部長も、みんななんで働くときに化粧するの？」

神崎：「それはOLの身だしなみかなー」

矢部：「すっぴんはちょっとね、会社だし、男の目もあるし。」

張：「すっぴんダメですか？」

楊：「中国では働く女みんなすっぴんだよ。化粧して働くのはホステスだけ。」

神崎：「中国ではそうでも、日本では…」

楊：「日本のOLなんかおかしいよ。何十分もトイレで化粧してて、なんかびっくりした！仕事に化粧するのは本当に必要？中身のほうが大事だよね！」

神崎と矢部：無言

この場面では日本人と中国人の若者女性の化粧意識が激しくぶつかるシーンである。まとめてみると、日本の若者女性にとって化粧は毎日の仕事に必要不可欠なものであることに比べ、中国の若者女性は、化粧は「ホステス」しかしない、まるで中国では化粧をする人はまともじゃないという風に描かれる。つまり、仕事するとき、日本人の若者女性は化粧するのが当たり前のようであるが、まともな中国の若者女性は決して

て化粧しないで、すっぴんで出勤するのが当然であるとされている。

「月の恋人～Moon Lovers～」(以下は「月」と略す)に登場する劉秀美が第一話で最初に登場するのは、男主人公の葉月蓮介が上海で会社を進出するために、上海で元々ある工場を買収し、撤去しようとする時に、工場で働いていた中国人が抗議をするシーンである。劉は「工場を返せ」と叫びながら、葉月が乗っている車の窓を強く叩く。髪の毛が汚れた顔に散乱して、ほかの抗議者に押された顔を葉月の車窓にぶつけ、葉月はそれに対して嫌な顔で「きつない」と言うシーンである。このシーンから、劉は自分の外見を完全に無視し、工場のことしか考えない心境が現れる。第一話の劉の容貌に関しては、化粧はもちろん、清潔すら保たない人物だと思われる。

3. 1. 3 服装

「上海」に登場する黄琳が第2話に登場する時には大きなリュックを背負って、白いシャツと赤いズボンを着ている。ストレートの2つ結びの髪形と合わせて、素朴でかわいいらしい女の子のイメージを視聴者に持たせ、そしてそのイメージをストーリー全般に貫いていることがわかる。最後の6話に黄琳は日本人主人公がデザインした洋服を着、モデルになり、上海コレクションのステージに立ち、変身を遂げた。

「OL」に登場する中国農村出身の張琳が最初に登場する時には日本へと旅立つときである。大量な荷物を抱え、赤いリュックを背負い、色褪せたデニムジャケットと赤いズボンを着ている。「OL」に登場するもう一人の女性は上海出身の楊洋である。楊は張より家庭が裕福なので、普通のTシャツとデニムジーンズを着ている。日本の会社に着き、すぐに研修生の赤い制服に着替える。日常着について、張は黄ばんだシャツで、楊は紺色のジャージーである。2人とも一度もスカートを着たことがない。場面に応じて毎回違う服装(1話に平均5回)に着替えるほかの日本人と比べ、服装についてほぼ変化のない2人である。

そして4人の中で一番服装に変化がみられるのは「月」の女主人公として登場する劉秀美(以下は劉と略す)である。劉のすべての服装は大きく4種類に分けることができる。それは一話に登場する時の工場の作業服、有名になる前の日常着、モデルをやる時のドレス、有名になった後の日常着である。ストーリーの流れに合わせて、劉の服装もだんだん派手になっていく。特に「日本に行く前」と「日本に行った後」の対比から見るとわかりやすい。一番の特徴が最初に登場

する時の作業服と最後に上海へと帰る時の白いワンピースである。

服装の変化は劉が服装に対する態度の変化に基づいているのである。最初の劉は工場を守るため、個人の外見は全然気にしてはいなかった。1話のシーンを取り上げた。

〔月〕 第一話9分40秒

友人：「シュウメイ、あたし汗臭くない？」

劉：匂いを嗅いで「大丈夫よ。みんなも泊りだもの。それよりこれで工場が戻るの？」

3. 2 性格・行動

性格・行動に関しては、研究対象とする4人の登場場面をすべて抽出し、それぞれの場面が示す4人の性格とその回数を表3にまとめた。それぞれの性格が表す場面が5回以上あれば、その性格を持つと判断する。

この表3について、以後、それぞれ登場人物ひとりひとりについて、登場場面全てでどのように性格が判断されたかを示す。

3. 2. 1 「上海」黄琳

黄琳が登場する24回の場面の主な内容から判断された性格は やさしく家族思いであるという性格である。

黄の一番伝わる特徴は父への思いである。2話で最初に登場する時にも視聴者に強い印象を残した。黄は野村と同居人の日本人の遠野麻里の部屋の窓から見える隣に住んでいる。

家族思い性格を示す例：〔上海〕第2話 31分01秒

野村：「あー、洗濯も忘れてた。」洗濯物を取り、黄が一人で庭で涙を流しながら写真を見つめているのを見た。「あの子、向かいのうちの子でしょう？」

遠藤：「え？あー、琳ちゃん？」

野村：「琳ちゃんって言うんだ。」

遠藤：嘆いて「またお母さんと喧嘩したのかなー。いつもお父さんのことでやり合っているんです。」

野村：「お父さん？」

遠藤：「うん、日本に出稼ぎに行っているだって、もう何年も行ったきりらしくって…やっぱり寂しんじゃないですか。」

黄：古い父とのツーショットの写真を見つめる。涙を拭く。

3. 2. 2 「OL」張琳

張が登場する57回の場面の主な内容とそれから伝わる性格は、無力だが優しいということである。

張は中国湖南省の山奥の農村から、日本の女主人公の神崎島子の会社に研修生として働くために、成田空港までやってきた。神崎は出迎えに行ったが、すでに到着済みなはずなのになかなか張の姿が見えなかったため、神崎が出口の手前の椅子に座った。その時に不安そうな顔で一人の女の子（張）が出てきた。

張の性格の無力を示す例：〔OL〕第1話 17分40秒

張：泣きそうな顔で「助けてください！」

神崎：「え！？」

張：神崎の手を掴んで「助けてください。」

神崎：「ちょっと、私、人待ってるから、ここ動けないのよ。」

張：さらに泣きそうな顔になる。

神崎：しょうがなく、「なに？どうしたの？」

張：「私の荷物ありません！私の荷物どこ行きましたかわかりません！」

神崎：張が抱えている荷物を見て「荷物、あるじゃない？」

張：泣く。「これじゃない、もう一つ…」中国語で「それは両親からもらった大切なものだから、なくしたら生きていけない！」

神崎：「中国語わからないのよ、日本語で言ってくれる？」

張：声もたてないで泣く。「私の荷物、助けてください！」

神崎：「わかったから、落ち着いて！」張を連れて案内所に聞きに行ったが、向こうが手一杯な

表3 4人の登場回数と性格の割合

	通算登場回数	やさしさ	家族思い・親孝行	勤勉・真面目	無力・助けられる	率直・飾らない	性格と無関係
黄琳	24	9	8	3	6	0	5
張琳	57	25	7	12	8	4	8
楊洋	56	26	0	11	0	18	9
劉秀美	50	16	20	0	20	4	16

ので対応できなかった。張に「大丈夫、きつと見つかるから！」

張：神崎において行かれると思い、不安な顔になる。

神崎：「私が一緒に探しますから！」

張：やっと安心して、「ありがとうございます。」

神崎が彼方此方聞きまわって、最後まで責任を持って張の荷物を探し出した。張は自分の荷物を見て大泣きした。

しかし、張という人物は無力さだけではない。張はやさしくて純粋な人の例を挙げる。

〔OL〕第2話 12分35秒 お昼休みなのに、神崎は休憩を取らずに働く張を見かけた。

神崎：「お昼ご飯は？」

張：微笑んで、「お腹空きません。」

神崎：「張さんはどうしてそんなに頑張るのかな？」

張：「両親のために頑張ります。」

神崎：「両親？」

張：「お父さんとお母さん苦勞して私を学に行かせてくれました。一日も早く仕事を覚えてらくせさ…」

神崎：「楽しませたいの？」

張：「はい、楽しませたいです。」

神崎：「そう。」

3. 2. 3 「OL」楊洋

楊が登場する55回の場面の主な内容と、それを分析したことから明らかになった楊の性格は優しく素直ということである。

次は楊の優しさを示す例である。

〔OL〕第2話 13分31秒 神崎は張が会社に通いながらアルバイトをしていることに気づき、休日に張と楊のアパートを訪ねたが、張がアルバイトに行っていて、楊がドアを開けた。

楊：「あ！神崎さん！」

神崎：「お休みの日にごめんね。張さんはいる？」

楊：「琳琳はコンビニに…買い物だよ。」

神崎：「遅くなるのかな？」

楊：「何で？」

神崎：「買い物じゃなくて、アルバイト？」

楊：「なに？知ってたんだ！もうすぐ帰るから入って待ってて。どうぞ。」

楊は部屋に入ってきた神崎が、飾ってある張と両親の写真を見ているの気づく。

楊：張の鞆を指し、「あの中に何が入っていると思う？」

神崎：「貴重品かな…」

楊：「うん！とても大事な貴重品だよ。」鞆を開ける。

神崎：「これ！？」

楊：「日本で飢え死にしないように、琳琳のお父さんとお母さん、詰め込んでくれたんだよ！」

張：「ただいま。神崎さん！」

神崎：「今日は話があってやってきたの。」

張：「はい。」

神崎：「コンビニのアルバイト、禁止されているのを、知ってるでしょ？」

楊：「やめさせるの？琳琳かわいそうだよ！」

神崎：「でも日本の企業では規則を守らないと会社にはいられないの。」

楊：「琳琳はお金を送らないといけないんだよ。琳琳のお父さんとお母さん親戚からお金借りたの！琳琳を大学に行かせるために！」

楊のもう一つの特徴は素直である。張と楊の容貌については、すっぴんを特徴としていると説明する時に出した第1話46分50秒の神崎と矢部を家に招いての台詞から、楊の素直さがわかる。普通の人とは自分が慣れないところを見つけても簡単にそのことをやっている人に自分の考えをそのまま述べる場合は少ないと考えられる。しかし、楊は化粧している日本人のOLが変だと日本人OL本人にそのまま言っている。

ここで「OL」に登場する二人の女性に共有する性格の特徴は真面目さということである。

3. 2. 4 「月」劉秀美

劉が登場する50回の場面の主な内容とそれから伝わる性格は、家族思いで無力であるということである。

例えば劉の家族思い、やさしさを示す例では、

〔月〕第1話 20分52秒

劉：電話で「イヤナものはイヤ！工場を乗っ取った会社のモデルなんて…しつこいんだよ！」電話を切る。

母親の咳を聞いて、劉は家を見回り、米のない鍋が映りだす。閉まっていた小さい箱を取り出し、中にあるお金で買い物する。

お店のおばさん：「シュウメイ、お母さんの具合どう？」

劉：笑顔で「よくなってる。」

おばさん：「そりゃよかった。あんたも体に気をつけな。」

劉:「そうね。ありがとう。また来るね。」
 通りかかった人におつかる。
 劉:「ごめんなさい。大丈夫ですか？」
 友:「シュウメイ。」
 工場と一緒に働いていた男の親友が女装をしている姿。
 劉:「ミン! どうしたの?」
 ミン:「昼間の仕事が無くなったら、夜稼ぐしかないでしょ。」
 劉:笑顔で「キレイだよ、ミン。うちでご飯食べてかない?」
 ミン:「そんな、悪いわ。」
 劉:笑顔で「日本に行くための貯金を少し使っちゃった。行こう!」

3. 3 生活環境・社会的位置づけ

表4は4人の女性の最初と最後の生活環境(家庭との関係)と社会的位置づけ(職業)の変化を示したものである。

黄が登場する24回の場面の中では、8回は父への思いを描いている。父にあまりにも会いたいため、家出し、飛行機をずっと眺める場面もある。しかし黄はこの現状を自分の力だけで帰ることができない。しかし最後に、野村たちがデザインした洋服を作り、黄をモデルにする。黄はこれをきっかけに、上海コレクションのステージに立ち、父と会うことまでできる。

張は大きな家族を支えるため、会社のルールを破るまで、深夜のコンビニでのアルバイトを続ける。両親への思いに関する場面も7回ある。しかし最終話の黄は日本での研修を終えた後、中国へと帰り、日本人を中国の会社員に紹介することを専門とする講師となる。

楊は素直で生意気な女の子なので、他人と衝突する場面が多く見られる。研修生として働いている間には東慶商事の受け付けで、総務部の野呂主任や矢部などとの言い合いの場面は通算18回あった。しかし最終話では、神崎の会社でちゃんとした敬語で電話を取っている場面があり、神崎の教えで一人の社会人となっ

ていく姿がみられる。

劉には病気で寝たきりの母と日本へ行ったきりの父がいて、一人での家具工場での給料で貧困な生活をし、住んでいるボロボロなアパートも立ち退きを通告される場面が3回見られる。父に会いに行く貯金を使うほど、家計が苦しい中、日本人の主人公の葉月に会社のモデルにされ、日本へと連れて来られた。そのため、日本で父に会う夢を実現し、モデルをやることで有名となり、最終話では自分のマネージャを持ち、中国で芸能人となる。

3. 3. 1 「上海」黄琳

黄は上海出身の割に、家計が厳しい。黄の性格について分析する時に、父親思いの子であるが、なかなか自分の力で日本にいる父に会いに行くことが難しく、「上海」第4話19分24秒からのシーンから、黄の家計の厳しさがわかる。黄は母親と2人で上海の古い部屋に住んでいて、父親が5年前から日本へ行ったきり、家庭の収入は全部母親の稼ぎに頼っている。家出した黄を呼び戻すときに、遠藤の「きっと、お父さんは決めたのよ。琳ちゃんを大学に入れるまで帰らずに頑張ってるって」という話から、黄の父親が日本に行くのも黄を大学に行かせるために日本へ出稼ぎしていることがわかる。つまり黄は貧困の条件の「お金に困っている」と「家庭の生計は一人の稼ぎにたよっている」という二つの条件を満たし、貧困だと判断した。

3. 3. 2 「OL」張琳

中国で貧困な生活をする張は、日本でも変わらず厳しい生活をしている。

3. 3. 3 「OL」楊洋

「OL」で楊の経済状況についての紹介は少ない。楊が神崎と矢部を張の家に招待する時に「私は上海でマンションに住んでたけど、でも東京家賃高いし、小旗さんケチだから、しょうがないよね。」と言った話から、楊は上海の比較的裕福な家庭で生まれ、黄に比べ

表4 4人の生活環境・社会的位置づけの前後対比

	最初	最後
黄琳	母親と貧困な生活をし、普通の高校生である。日本へ出稼ぎに行った父に会いに行きたいという夢を抱く	日本で大学に留学することができ、父とも野村のコレクションのおかげで会うことができる
張琳	貧困な農村出身で、家族の希望を一人で背負い、日本へと出稼ぎ	中国へと帰り、日本人の紹介を専門とする講師となる
楊洋	普通の女の子、一人で日本へと出稼ぎ	神崎の会社でOLとして働く
劉秀美	病気の母の世話をしながら家具工場の作業員として働き、とても貧困な生活をしている	日本でモデルをやって有名になり、中国で女優となる

ると比較的裕福な生活を送ってきたと考えられる。楊は貧困だと判断できない。

3. 3. 4 「月」劉秀美

第1話で劉は厳しい生活環境の中で生きていた。病気で寝たきりな母親と二人でボロボロな家で暮らしていて、劉は工場で働いていて薬代から生活費までやりくりしている。そこで工場が買収され、家計がかなり苦しい状態で、立ち退きも通告された。劉は「家庭の生計は一人の稼ぎに頼っている」とかなりの「お金に困っている」という二つの条件を満たすことが示されたため、劉が貧困であると分類される。

3. 4 分析結果のまとめ

鈴木の「NHK朝の連続テレビ小説に登場する人々」の分析シート¹²⁾を元にし、4人の最初と最後の登場場面のそれぞれの属性・特徴と生活環境を分析し、表5にまとめた。

以上の分析より、4人が日本製テレビドラマに描かれるイメージについては主に次の点が明らかになった(表6)。

3. 4. 1 生活環境

黄の父親は黄を大学に行かせるため日本で出稼ぎに行き、黄は母と二人暮らし、母親の稼ぎに頼って

る。「一人の稼ぎに頼っている」と「お金に困っている」ため、貧乏であると分類された。張は中国湖南省の山奥の「農村出身」と「お金に困っている」ため、貧乏であると分類された。楊は特に貧乏な特徴がないので、貧乏であるとは分類されない。劉は中国にいるとき、母親との生活は劉の「一人の稼ぎに頼って」いて「お金に困っている」を満たし、貧乏であると分類された。

3. 4. 2 容姿

髪形について、4人とも黒髪で、簡単な髪形をして登場する。容貌について、4人ともすっぴん、あるいは薄い化粧で登場している。

服装について、後半に日本でモデルになった劉を除く、4人全員が簡単で華のない服装を着ている。黄は素朴でかわいらしい女の子のイメージを貫く。中国にいた劉は特に貧乏なので、ボロボロな服を着ていた。「OL」の張と楊は主役の神崎が1話に平均3着以上の服を着替えているのとは比べ、出勤用の服と日常用の一着しかない。よって、4人とも素朴であると分類された。

3. 4. 3 性格

性格に関しては、5回以上の場面による性格の判断基準を用いて、表3を分析した。その結果、黄はやさ

表5 4人が最初と最後に登場する時の様子

		黄琳	張琳	楊洋	劉秀美	
属性・特徴	外見・容姿	髪型	黒髪のストレートの2つ結び	黒髪のストレートの1つ結び	黒髪の三つ編みの1つ結び	黒髪の3つ編み
		化粧状態	セッティングされた散らし髪	セッティングされた散らし髪	セッティングされた散らし髪	セッティングされた散らし髪
	服装	薄化粧	すっぴん	すっぴん	すっぴん	
		化粧している	化粧している	化粧している	化粧している	
行動・性格	大きいリュックを背負い、ワイシャツと赤のスポーツボン	時代遅れの白いシャツにデニムのジャケットと赤いズボン	紺色のパーカーとデニムジーンズ	グレーの作業服		
生活環境・社会的位置づけ	家族	白のスーツ	スーツ	スーツ	白いワンピース	
		父親との写真を見ながら泣く	日本へ行く前に家族の人たちに別れを告げる	1人で日本へ旅立つ	撤去される工場のために抗議する	
	職業	日本へと出稼ぎしにいったきりの父がいて、上海で母と二人暮らし	両親や大きな家族がいる	不明	日本へと出稼ぎしにいったきりの父がいて、上海で母と二人暮らし	
		父が中国へ帰る	不明	不明	父が中国へ帰る	
出身	学生	研修生	研修生	工場工場の従業員		
	日本の大学の夏休みに故郷へ帰省	中国で日本人を紹介する講師をやっている	日本のOLになる	中国で女優をやる		
	上海	中国湖南省の山奥の農村	上海	中国江西省		

斜体が最後の場面

しい, 家族思い, 無力であると分類された。張はやさしい, 家族思い, 無力, 勤勉であると分類された。楊はやさしい, 率直, 勤勉であると分類された。劉はやさしい, 家族思い, 無力であると分類された (表6)。

3. 4. 4 生活環境と容姿

研究対象の黄, 張, 楊と劉の生活環境及び容姿の分析結果を表6にまとめた。

表6 生活環境及び容姿の分析結果

	生活環境	容姿	性格
黄琳	貧乏	素朴	やさしい, 家族思い, 無力
張琳	貧乏	素朴	やさしい, 家族思い, 勤勉, 無力
楊洋	貧乏ではない	素朴	やさしい, 勤勉, 率直
劉秀美	貧乏	素朴	やさしい, 家族思い, 無力

4. 考察

4. 1 仮説の「中国人の若い女性が助けられる」ことの検証

ここからは4人の「助けられる」, 「助ける」場面及び容姿・生活環境の前後対比の分析結果について表にまとめて説明する。4人は「中国人の若い女性が助けられる」という姿に描かれているかという仮説を検証するために, まず「日本人に助けられる」場面を直接ピックアップし, 「日本人を助ける」場面も対立概念としてまとめた (表7)。

4. 1. 1 4人は「助けられる」に描かれているか

「中国人の若い女性が助けられる」を検証するために, まず「中国人の若い女性が助けられる」の定義を定めた。3. で容姿・外見と生活環境・社会的位置づけの研究結果を元に, ここでは, 容姿・外見と生活環境・社会的位置づけの二つの点の成長に促進できる助けを「助ける」と定義した。つまり他人に自分の容姿・外見と生活環境・社会的位置づけにおいて助けられることを「助けられる」と呼ぶ。具体的に言うと, 外見・容姿については「キレイになる」, 「おしゃれになる」などで, 生活環境・社会的位置づけについては「家族が団欒する」, 「(仕事や勉強など) 能力の向上」, 「知識の増加」, 「より良い仕事に就く」などがあげられる。

(1) 黄琳についての検証

黄については, 表7より, 助けられるが7場面であり, 助ける場面が1場面である。助けられる場面の中での5と6は野村がデザインした服のおかげで, 黄は初めてキレイだと言われ, おしゃれになった。それをきっかけに, 黄の最後の登場ではおしゃれな姿で登場した。つまり, 日本人に黄の外見・容姿について助けたと見られる。したがって, 黄の容姿・外見から助けられると判断される。

生活環境について, 黄はもともとずっと会いたくて会えない日本に行ったきりの父がいたが, 野村がデザインした服が上海コレクションに出ることができたため, 黄は父と再会でき, 最終的に父は母子の元へと帰ることになった。したがって, 黄の生活環境から助けられると判断された。

社会的位置づけとして, 黄はもともと普通の高校生であったが, 遠藤や野村を日本語の先生にして一緒に勉強するシーンは3回あるため, 日本人の助けで日本語を身につけたと言える。そのおかげで, 黄は最終的に日本への留学を実現できたと言えよう。したがって, 黄の社会的位置づけから助けられると判断される。

したがって, 黄の容姿, 生活環境, 社会的位置づけの前後変化とその変化を生み出す日本人に助けられる場面より, 黄は助けられるものであることが検証された。

(2) 張琳についての検証

張は, 表7より, 助けられる場面が7場面であり助ける場面が1場面である。助けられる場面6は日本人矢部が張の化粧をしてあげることで, 張は初めてキレイだと言われ, おしゃれとなった。それをきっかけに, 張の最後の登場では化粧をしていて, よりおしゃれな姿で登場した。つまり, 日本人が張の外見・容姿について助けたと見られる。したがって, 張の容姿・外見から助けられると判断される。

生活環境について, 張は中国の山奥の出身で, 大きな家族を持ち, 家族みんなの希望を一人で背負い日本へ来た。家族を思うために, 日本の会社のルールを破り, 深夜にアルバイトをし, 家族にお金を送ることが発覚し, 中国へ帰されることとなった。そこで張を助け, 日本の会社へと連れ戻したのは日本人の神崎である。神崎のおかげで, 張は引き続き日本で働くことができた。最終的な張の家庭環境についての紹介がないが, 張が日本で研修生として働けるのは張の家庭にも収入をもたらすため, 日本人に助けられると考えられる。したがって, 黄の生活環境から助けられると判断される。

社会的位置づけとして, 張はもともと日本に研修生

表7 4人が日本人に助けられた変化

人物	最初	日本人に「助けられる」場面	最終
黄琳			
容姿・外見	A) 黒髪ストレートの2つ結びの髪形 B) ほぼすっぴん C) 大きいリックを背負い、ワイシャツと赤のスポーツボン	A) 5. 「野村のデザインした服を試着、きれいになる」 B) 6. 「野村がデザインした服を着て上海コレクションのステージに立つ」	A) セッティングされた散らし髪 B) 化粧している C) 白のスーツ
生活環境	日本へと出稼ぎしにいったさりの父がいて、上海で母と二人暮らしで、貧困な生活をしている	7. 野村のデザインした服のおかげで、「父と上海コレクションで感動の再会」	父が中国へ帰る 母と一家団欒
社会的位置付	普通の高校生	1. 「遠藤から日本語を教わる」	日本の大学の医学部へと留学する
張琳			
容姿・外見	A) 黒髪ストレートの一つ結び B) すっぴん C) 時代遅れの白いシャツにデニムのジャケットと赤いズボン	6. 「矢部に化粧され、きれいになる」	A) セッティングされた散らし髪 B) 化粧している C) スーツ
生活環境	両親や大きな家族がいて、貧困な生活をしている	A) 3. 「神崎がアルバイトのことを発見、張の家まで行って相談する」, 「そのことを神崎が会社に隠す」 B) 4. アルバイトがばれた際に、「神崎に空港で引き止められる」	不明
社会的位置付	研修生	A) 2. 「神崎から仕事を教わる」×6 B) 5. 「神崎からマニュアルにない大事なことを教わる」	中国で日本人を紹介する講師をやっている
楊洋			
容姿・外見	A) 黒髪3つ編みの一つ結び B) すっぴん C) 紺色のパーカーとデニムジーンズ	3. 「矢部に化粧され、きれいになる」	A) セッティングされた散らし髪 B) 化粧している C) スーツ
生活環境	不明	なし	不明
社会的位置付	研修生	A) 2. 「神崎から仕事を教わる」×6 B) 4. 「神崎の会社で働くことになる」	神崎の会社でOLになる
劉秀美			
容姿・外見	A) 黒髪3つ編み B) すっぴん C) 少し汚い家具工場のグレーの作業服	A) 4. 「自分のダサイ服を二宮にアレンジされて、おしゃれになる」 B) 5. 「葉月にブランド品の服を買ってもらい、キレイになる」 C) 2. 「葉月の会社のモデルになされ、新店発表会でキレイになる」	A) セッティングされた散らし髪 B) 化粧している C) 白のワンピース、アクセサリも身につけている
生活環境	日本へいったさりの父がいて、上海で母と二人暮らしで、一人稼ぎで非常に貧困な生活をしている	A) 1. 「葉月に母親を養ってもらう」 B) 3. 葉月の会社のモデルとなり「来日し、日本にいる父と再会」 C) 6. 「葉月に自分の父を母の元へと送られる」	父が中国へ帰る 母と一家団欒
社会的位置付	家具工場の作業員	A) 2. 「葉月の会社のモデルになされ、新店発表会でキレイになる」 B) 7. 「葉月の会社のモデルをやることで、有名となる」 C) 8. 葉月の会社でモデルをやり「日本で有名となることで、中国で女優となる」	中国で女優となる

数値は放送回である。また×6は、その場面が6回あったということ。

として働いていたが、その研修生の経験を生かし、中国に帰り、日本人を紹介する講師となった。それは張自身の勤勉や努力も不可欠であるが、研修生の時の教育係の神崎から仕事や人生の「大事なこと」について何回も教わり、しっかりと成長することができたと言えよう。そこで、張の社会的位置づけから助けられると判断された。

したがって、張の容姿、生活環境、社会的位置づけの前後比較とその変化を生み出す日本人に助けられる場面より、張は助けられるものであると検証された。

(3) 楊洋についての検証

楊の検証について、表7より説明する。

楊については、助けられる場面が3場面であり助けられる場面が1場面である。助けられる場面3は日本人矢

部が張の化粧をしてあげることで、楊は初めてキレイだと言われ、おしゃれとなった。それをきっかけに、楊の最後の登場では化粧をしていて、よりおしゃれな姿で登場した。つまり、日本人が楊の外見・容姿について助けたと見られる。したがって、楊の容姿・外見から助けられると判断された。

楊の生活環境について、番組の紹介はなかったため、楊の生活環境から助けられると判断されなかった。

社会的な位置づけとして、楊はもともと日本に研修生として働いているが、日本での研修を機に、日本人の神崎の教えによって、日本への興味を持ち始め、最後には神崎が興した会社に勤めることができ、日本のOLとなる。電話の取り方など一社会人としての自覚を持つことができたのは神崎の教えのおかげだと言える。したがって、楊の社会的な位置づけから助けられると判断された。

したがって、楊の容姿、社会的な位置づけの前後比較及びその変化を生み出す日本人に「助けられる」場面から、「助けられる」と検証されたが、生活環境に関しては検証されなかったことより、楊は「助けられる」とは検証されなかった。

(4) 劉秀美についての検証

劉の検証についても、表7をもって説明する。

劉については、助けられる場面が8場面であり助ける場面が0場面である。最初に登場する時の劉は素朴な外見をし、おしゃれというよりも、清潔すら保てない人物だと思われる。しかし、日本人の主人公葉月と二宮に出会い、日本の会社のモデルとなることで、ブランド品を身につける美人となった。つまり、日本人が劉の外見・容姿について助けたと見られる。したがって、劉の容姿・外見から助けられると判断される。

生活環境について、劉は会いたくても会えない日本に行ったきりの父がいたが、葉月の会社のモデルとなることができたため、葉月に重病の母の面倒を見てもらい、日本へ行って、父と再会できた。そして葉月に父を母の元へと送ってもらったため、最終的に一家団欒となった。したがって、劉の生活環境から助けられると判断された。

社会的な位置づけとして、劉はもともと中国の家具工場の作業員で、一人稼ぎで非常に貧乏な生活をしてきたが、葉月と出会うことによって、日本の会社のモデルをやることになり、日本で有名となったため、最終的には中国で女優となれた。したがって、劉の社会的な位置づけから助けられると判断された。

したがって、劉の容姿、生活環境、社会的な位置づけ

の前後変化とその変化を生み出す日本人に助けられる場面より、劉は助けられるものであると検証された。

4. 1. 2 日本人女性の登場人物

女性の登場人物としての中国人と日本人を比較することで、その差がわかりやすくなると思われる。本稿では中国の若い女性像のステレオタイプを明確にするために、同じドラマに登場する日本人の若い女性と比較することが必要だと考えた。3つのドラマで一人ずつの主要人物として登場する日本人の若い女性を選び、中国人の若い女性との差を明らかにした。

(1) 「上海タイフーン」の野村美鈴

まずは「上海」の女主人公として登場する野村美鈴について説明する。最初に日本のアパレル会社で婦人服営業主任として働き、部下にも厳しい指導をしている強い女性のイメージを伝えている。上海で洋服屋をオープンする夢も叶え、上海コレクションに出ることも成功した。そして、野村がいなくなっても黄などその場所に残っている人にとって心の支えとなっている。自分の夢も自分の手で叶え、周りの人の支えとなり、「助けられる」人物であるとは言えない。

(2) 「OL日本」の神崎島子と矢部桜

「OL」の女主人公神崎島子は、「商社で勤続9年。総務一筋。独身。責任感が強く、負けず嫌いな性格。仕事は抜群にできる。上司からも頼られ、自分が総務課に不可欠であるという自負がある。」という説明がある。張の無力さとやさしさを分析する際にもいくつかの神崎に助けられる場面を挙げたため、ここでは省略する。よって、神崎は「助けられる」人物であるとは判断できない。

「OL」に登場するもう一人の若い日本人女性矢部桜は新人OLで、矢部にとって化粧と新しい服は欠かせないものである。張と楊の容姿について分析する際にも、矢部の化粧と服装に関する場面をいくつか挙げたのでここでは省略する。よって、矢部は素朴であるとは言えない。

(3) 「月の恋人～Moon Lovers～」の二宮真絵美

「月」の女主人公二宮真絵美はインテリアデザイナーとして、社長の葉月蓮介とは学生時代からの知合いで葉月に信頼を置かれ、唯一葉月に意見できる存在である。最終話では、葉月から社長の座を奪った蔡風見は『レゴリス』(家具会社)の新戦略を打ち出す。社長就任の挨拶で、蔡はパーティーの席で『レゴリス』に残って欲しいと二宮に頼んだ。二宮は『レゴリス』を離れて自分の事務所に戻り、家具の個展の準備をする。ここから、インテリアデザイナーの能力が認

められた二宮は新社長からの依頼にも関わらず、自ら安定した会社を辞め、自分の事務所を立ち上げた。劉は二宮に中国から持ってきた素朴な服をアレンジしてもらったり、何回も助けられる。そこで、二宮は素朴で「助けられる」人物であるとは分類できない。

したがって、3つのドラマにそれぞれ登場する3人の日本人女性の野村・神崎・二宮は全員「助けられる」人物であると判定できない。

4. 1. 3 仮説検証の結果

以上をもって、4人の検証結果について述べる(表8)。

(1) 黄琳の検証結果

4. 1. 1での検証により、黄の容姿、生活環境、社会的立場の前後変化とその変化を生み出す日本人野村に助けられる場面より、黄は助けられると検証された。同番組で登場する日本人の野村に何度も助けられ、容姿・生活環境・社会的立場の3つの角度から助けられる場面があげられ、それと対照的に(1)での比較で、日本人女性の野村は「助けられる」人物であると判断できなかったため、黄は仮説の「助けられる」人物であることが検証された。

(2) 張琳の検証結果

4. 1. 1での検証により、張の容姿、生活環境、社会的立場の前後変化とその変化を生み出す日本人である神崎や矢部に助けられる場面より、黄は助けられると検証された。同番組で登場する日本人の神崎と矢部に何度も助けられ、容姿・生活環境・社会的立場の3つの角度から助けられる場面があげられ、それと対照的に(2)での比較で、日本人女性の神崎は「助けられる」人物であると判断できなかったため、張は仮説の「助けられる」人物であることが検証された。しかし、張は日本人を感心させたり、日本人の考えを変えたりする場面もたくさんあることより、張は純粋でまっすぐに頑張り、弱い人であるが、強い人でもある。よって、張は仮説の「助けられる」人物であることが一部検証された。

(3) 楊洋の検証結果

4. 1. 1での検証により、楊の容姿、社会的立場の前後比較及びその変化を生み出す日本人に「助けられる」場面から、「助けられる」と検証されたが、生活環境に関しては検証されなかったことより、楊は「助けられる」とは検証されなかった。

(4) 劉秀美の検証結果

4. 1. 1での検証により、劉の容姿、生活環境、社会的立場の前後変化とその変化を生み出す日本人

に助けられる場面より、劉は助けられると検証された。日本人の葉月と二宮に何度も助けられ、容姿・生活環境・社会的立場の3つの角度から助けられる場面があげられ、それと対照的に、4. 1. 2での比較で、日本人女性の二宮は「助けられる」人物であると判断できなかったため、劉は仮説の「助けられる」人物であることが検証された。

表8 仮説検証結果

登場人物	仮説の検証
黄琳	検証された
張琳	一部検証された
楊洋	検証されなかった
劉秀美	検証された

4. 1. 4 楊と張から考えられること

なぜ仮説のステレオタイプと同じような「日本人に助けられる存在」の黄、劉、張が登場したのか？そしてなぜ楊という少々違うキャラクターが登場したのだろうか。

テレビドラマの内容は、視聴者に影響を与え、視聴者のニーズを反映し、時にはニーズや意識を先取りする形で、時代を映す鏡となっている²⁾。つまり黄・張・楊・劉の登場は視聴者のニーズを反映しているか、テレビドラマを制作する側が視聴者のニーズを先取りして読みとった結果である。黄・張・劉のような「助けられる存在」は日本製ドラマの主要な受信者としての日本人のニーズに合わせた役である。日本人が「日本人に助けられる(中国人の若者女性の)存在」を見たいという心境があるため、黄・張・劉のような「助けられる存在」が生まれたと言えよう。

「上海」と「月」に登場する黄と劉の典型的な「日本人に助けられる存在」と違い、なぜ「OL」に登場する張と楊は違うのだろうか。「OL」は2008年10月8日から12月10日まで日本テレビ系列で毎週水曜22:00-22:54に放送されたドラマである。東慶商事に勤めるOLの神崎島子が所属する総務課は、経済不況の煽りを受けて、経営コストの削減をせざるを得なくなり、会社は総務課の仕事を中国に海外アウトソーシングする方針を出した。当初は見ず知らずの中国人に仕事を任せられないと憤慨する神崎を始めとする総務課の社員達だったが、研修生達の一生懸命に生きる姿を見て、自分達の生き方を見直すことになる。このあらすじから見ると、「OL」が主に視聴者に伝えたいことは「日本人のOLが中国人の研修生の一生懸命

に生きる姿をみて自分たちの生き方を見直す」ことである。「OL」のホームページのイントロダクションでは日本人の視聴者に「あなたは本気で努力をしたことがありますか? 心からyesと答えられますか? 元気がない日本社会にOLが喝を入れる!!」という標語がある。つまり「OL」は日本人の生き方に疑問を感じ、そこで中国人の一生懸命努力することを励みとし、日本人に「喝」を入れたいテーマのドラマであるため、中国人の「頑張り屋」のキャラクターが必要となった。

しかし、中国人全員が張と楊のような頑張り屋であるとは考えにくい。貧困な家庭で育った張と裕福な家庭で育った楊も同じような頑張り屋とは考えにくい。なぜ楊が日本に来て張と同じようなボロボロなアパートに住まないといけないのかが不思議である。そもそも今の中国では張と楊のように、車種を覚えるために一晚中道を通った車を全部チェックする中国人若者はほほいらないと言っても過言ではない。「OL」の制作側がこのような人物像を作り出したのもある種中国若者のステレオタイプを作っていることになると考えられる。

4. 2 先行研究との比較

侯野は、米国製テレビドラマに登場する中国系女性を対象として、「アメリカのメディア業界では一般的に、白人が優位な立場に立ち、白人以外のマイノリティは不利な状況におかれる傾向にある」⁵⁾と述べ、常に「米国」に救済されるアジア系女性として表象され、白人支配の正当化に手助けをしていることを示している。そこで本研究の研究目的としては、日本のテレビドラマにも似たようなこと、つまり登場人物の中国人若者女性を不利な状況に置き、日本人に助けられる存在にさせる傾向があるのではないかと想定し、検証してきた。ここでは仮説の検証結果を持って侯野⁵⁾と比較して、共通点と相違点を検討した。

共通点として、日本製テレビドラマにおける中国人の若い女性も、米国製テレビドラマにおける中国系女性が白人に助けられる姿と同様に、何度も日本人に助けられ、日本人に救われる存在として描かれていることが多い。本研究で研究対象とされる4人の若い女性のうち3人は「助けられる」仮説が検証され、侯野の研究結果⁵⁾と共通すると考えられる。

相違点として、侯野の研究⁵⁾ではアジア系女性は高い社会的立場づけがなされていても、最終的な局面では「弱く」「間違っている」ため、放置しておくことと進むべき道を歩むことができずに困難な状況に陥って

しまう。侯野が分析したアジア系女性達は、製材所オーナー、緊急救命医師、弁護士と⁵⁾、いずれも自立し自分の才能と意志決定能力を用いて生きることができるといったような人物である。一見すると自らの意志と力で人生を豊かに設計し、時には困難な立場にいる他者を助けられる能力を持っているかのように見えるが、彼女達はそのようには描かれない。彼女達の傍らには、常に理想を体現し誰もが賞賛の目を向けるであろう、米国社会の価値観を強く感じさせる白人が見守っており、彼らは状況に応じて彼女達の手を取って、間違った場所、好ましくない状況から正しい方向へと導こうとしていることを示した。しかし本研究では中国人の若い女性は初めは低い社会的位置に置かれ、日本人に助けられながら、やさしい・家族思い・率直などのポジティブな性格を持ち、時に日本人を励まし、「間違ってる」はいない。「OL日本」に登場する張は黄や劉とはほぼ同じような設定にある。貧困な出身、素朴な容姿、やさしいが無力な性格、主人公の神崎に何回も助けられたことがあるため、「日本人に助けられる存在」とは言える。米国製のテレビドラマに登場する女性と対照的に、低い社会的立場づけではあり、確かに何回も日本人に助けられたことがあるが、日本人を感心させたり、日本人の考えを変えたりすることもたくさんあった。純粋でまっすぐに頑張る張は弱い人であるが、強い人でもある。そして「OL」に登場するもう一人の楊は素直な性格で、考えたことをそのまま言い、自分の夢をまっすぐ追いかける姿が視聴者に伝わってくる。楊は張のように「日本人に助けられる」場面もそれほど多くないが、最後には神崎の会社で働くこととなり、やはり神崎に「助けられた」とは言えるのだろう。しかしドラマ全般から見ると楊という人物から強く伝わるのは「助けられる」無力さではなく、まっすぐ自分のやりたいことに向かって頑張る姿である。よって、本研究の研究対象から分析した結果、侯野の研究結果⁵⁾と違って、中国人の若い女性全員が「弱く」、「間違っている」ようには描かれていないと考えられる。

相違点より以下のことが考えられる。侯野の研究結果⁵⁾では、白人権力者がアジア系女性に対して行った圧政的な歴史を合理化し、彼女達を彼らの利益に沿うように操作することを容易にする社会的機能が内包されていることを示した。しかし本研究ではそのような社会機能が見られなかったため、中国人の若い女性全員を「弱く」、「間違っている」ように描いていないと言えよう。

5. 結論

本研究では2008年から2011年までの日本製テレビドラマの中から、視聴率・放送時間・視聴可能の基準に基づき、3つのテレビドラマ「上海タイフーン」・「OL日本」・「月の恋人～Moon Lovers～」を研究対象として選択し、登場する4人の中国人若者女性黄琳・張琳・楊洋・劉秀美を研究対象人物として、日本製テレビドラマに描かれる中国人の若者女性像はどのように描かれ、「助けられる」人物として描かれているかについて分析した。研究方法としては、内容分析の「イメージ・描写・判別分析」という技法を使った。

最初の登場に関して、4人全員が素朴だと判断した。また家庭環境については、4人のうち3人が貧困だと判断した。

性格については、4人とも5件以上他人を助ける、あるいは他人思いを感じられる場面が記録されたため、4人ともやさしいと判断した。4人のうちの張・黄・劉が5件の他人に助けられる場面や親孝行か家族思いを表す場面があるため、4人のうちに3人が無力、親孝行だと判断した。そして劉と楊は率直という性格を持っていると判断した。

黄の容姿、生活環境、社会的立場の前後変化とその変化を生み出す日本人の野村に助けられる場面より、黄は助けられると検証された。

張の容姿、生活環境、社会的立場の前後変化とその変化を生み出す日本人の神崎や矢部に助けられる場面より、張は助けられる人物であると考えられた。しかし日本人を感心させたり、日本人の考えを変えたりする場面もたくさんあることより、張は純粋でまっすぐに頑張る弱い人であるが、強い人でもあった。よって、張は仮説の「助けられる」人物であることが一部検証された。

楊の容姿、社会的立場の前後比較及びその変化を生み出す日本人に「助けられる」場面から、「助けられる」と検証されたが、生活環境に関しては検証されなかったことより、楊は「助けられる」とは検証されなかった。

劉の容姿、生活環境、社会的立場の前後変化とその変化を生み出す日本人に助けられる場面より、劉は助けられると検証された。

張と楊の存在は、「OL日本」というテレビドラマの目標として、日本人の生き方に問題を感じ、そこで中国人の一生懸命努力することを励みとし、日本人に「喝」を入れたいという特殊性があるため、無力な張と無力ではない楊を描き、中国人の「頑張り屋」とい

う特徴を出したいと考えられる。「日本人に助けられる」ステレオタイプの中国人若者女性を作り出す代わりに、新たに「まっすぐに頑張る」中国人の若者女性のステレオタイプを作り出そうとしている。

侯野の論文⁵⁾と比較して、共通点と相違点を見つけ出した。共通点として、日本製テレビドラマにおける中国人の若い女性も、米国製テレビドラマにおける中国系女性が白人に助けられる姿と同様に、何度も日本人に助けられ、日本人に救われる存在として描かれている。相違点として、侯野の研究ではアジア系女性は高い社会的立場づけがなされていても、最終的な局面では「弱く」「間違っている」ため、放置しておく進むべき道を歩むことができずに困難な状況に陥ってしまうとした。しかし本研究では中国人の若い女性は初めは低い社会的立場に置かれ、日本人に助けられながら、やさしい・家族思い・率直などのポジティブな性格を持ち、時に日本人を励まし、「間違っ」はいない。

日本のテレビドラマにおける中国人の若者女性のステレオタイプの描写は、「上海タイフーン」, 「OL日本」, 「月の恋人～Moon Lovers～」の3つの作品から「助けられる」と「頑張り屋・努力家」の結論が見られる。これらの描写は、中国人の若者女性の多様な生活状況や性格を反映せず、単一の描写となっていると言えよう。それゆえ、日本のテレビドラマにおいては、これから中国の若者女性に関する単一の描写の傾向を避けるように努力するべきだと考えられる。

本研究では4人の中国人の女性若者の研究対象の性格・外見・生活環境を解明し、「日本人に助けられる存在」として描かれていることを示した。そのような女性像は受け手（日本人の視聴者）の中国人の若者イメージの形成にどのような影響を及ぼしているかはアンケートなどによる視聴者側のイメージの分析を行わなければならないため、今後の研究に譲ることとした。

参考文献

- 1) 総務省, 情報通信白書. 平成25年版, 2013
- 2) 岩男壽美子, テレビドラマのメッセージ: 社会心理学的分析. 勁草書房, 76-80, 2000
- 3) 藤田昌志, 日本イメージ, 中国イメージに関する日中共同研究について. 三重大学留学生センター紀要, 7, 121-13, 2005
- 4) 侯野裕美, 米国テレビドラマにおけるアジア系女性像. 評論・社会科学, 101, 25, 2012

- 5) 俣野裕美, 米国テレビドラマにおけるアジア系女性像, 評論・社会科学 101, 79-103, 2013
- 6) 西別府厚子, 岩男壽美子, テレビドラマの社会心理学的研究: 内容分析を中心として. 武蔵工業大学環境情報学部紀要, 7, 79-89, 2006
- 7) 植木理恵, 出会いをドラマに変える 2分の法則 第一印象の心理術. 東洋経済新報社, 23, 2006
- 8) 外務省, 最近の日中関係と中国情勢. 平成25年4月, 2013
- 9) 近藤恭子, 歪んだ鏡に写った日本 ― 国・文化をめぐるイメージと対外文化政策 ―. GNACフォーラム, 2005
- 10) 日吉昭彦, テレビ広告における外国人登場人物像に関する実証的研究. マスコミュニケーション研究, 51, 182-197, 1997
- 11) 唐牛祐輔, 楠見孝, 潜在的ジェンダーステレオタイプ知識と対人印象判断の関係. 認知心理学研究, 6, 155-164, 2009
- 12) 鈴木みどり編, Study Guide メディア・リテラシー ジェンダー編. リベルタ出版, 71, 2003
- 13) 唐沢穰, 集団の認知とステレオタイプ, 唐沢穰, 池上知子, 唐沢かおり, 大平英樹 (編), 社会的認知の心理学: 社会を描く心のはたらき, ナカニシヤ出版, 105-127, 2001

日本製のテレビドラマに描かれる中国人の女性若者像

Chinese young woman in Japanese TV drama

陳 啓*¹・和田 正 人*²

Qi CHEN and Masato WADA

教育実践研究支援センター

Abstract

A stereotype in TV drama is associated with foreigner and woman. The present study investigated the stereotypes of Chinese young women in Japanese TV drama. We selected four Chinese young women in three Japanese TV dramas. We investigated their level of figures, personalities and lifestyles on the dramas, using content analysis. We tested the hypothesis that Chinese young woman would be supported by Japanese. Three of four women would be supported by Japanese. Support was found for the hypothesis. Consistent with previous studies in America, Chinese young woman are supported by Japanese in Japanese TV drama. The results from this study contribute to reform the stereotype in Japanese TV drama.

Keywords: stereotype, Japanese TV drama, Chinese young woman

Center for the Research and Support of Educational Practice, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨: テレビドラマにおいては、外国人と女性にはステレオタイプが存在している。そこで本論文は日本製ドラマの中から3つのドラマを選択し、登場する4人の中国人の若い女性のステレオタイプを明らかにするものとした。内容分析を用い、4人の容姿、性格、生活環境それぞれを明らかにした。仮説「中国人の若い女性は助けられる」を検証するために、4人の登場人物の番組の進展に伴う変化及びその変化に影響を及ぼす日本人について分析を行った。その結果、仮説は3人で検証された。この結果は米国での研究と同様であった。日本製テレビドラマにおいて、中国の若者女性に関するステレオタイプを修正すべきだと考えられた。

キーワード: ステレオタイプ、日本製テレビドラマ、中国の若い女性

在电视连续剧中对于外国人与女性形象的描写常存在一种定式。本论文选取了在3部日本电视连续剧中出场的4个中国青年女性人物作为研究对象，并对4个人的外貌，性格以及生活环境进行了详细的分析。笔者假设，日本电

*¹ Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University, graduate in fiscal year 2014

*² Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)

视连续剧中对中国女性的形象设定为“需要日本人的帮助”，从4位中国青年女性人物形象在不同剧情发展中发生的变化，以及在剧情中给4位女性带来影响的日本人形象进行了比较分析。笔者的假设在其中3位中国青年女性人物身上得到了印证，这一结果也与美国方面的先行研究结果一致。所以笔者认为，日本电视连续剧种对于中国青年女性的描写定式应该做出适当的修改。

关键字: 定式, 日本电视连续剧, 中国青年女性人物形象